

第2回 琵琶湖の総合的な保全のための計画点検調査委員会 議事概要

■日 時 平成21年12月15日(火) 10時00分～12時00分

■場 所 ピアザ淡海 滋賀県立県民交流センター 305会議室

■出席者

(委員)

津野 洋 京都大学大学院工学研究科都市環境工学専攻教授
田中 宏明 京都大学大学院 工学研究科附属流域圏総合環境質研究センター 教授
西野麻知子 滋賀県琵琶湖環境科学研究センター 総合解析部門長
藤岡 康弘 滋賀県水産試験場長
脇田 健一 龍谷大学 社会学部 教授

(事務局)

国土交通省 都市・地域整備局 都市・地域政策課 広域都市圏整備室 牧 室長
青島 専門調査官
中谷

オブザーバーは別紙のとおり。

■議 題

- (1) 第1回計画点検調査委員会議事概要
- (2) 琵琶湖の総合保全に関する点検結果、効果及び課題について

■資 料

第2回琵琶湖の総合的な保全のための計画点検調査委員会 議事次第
資料1 第1回琵琶湖の総合的な保全のための計画点検調査委員会 議事概要
資料2 第1回琵琶湖の総合的な保全のための計画点検調査委員会 指摘と対応
資料3-1 琵琶湖の総合的な保全のための施策実施状況及び対策区分ごとの効果・課題
資料3-2 琵琶湖総合保全 第1期計画 分野ごとの効果と課題(素案)
参考資料1 関係省庁等機関へのヒアリング結果のとりまとめ
参考資料2 削減負荷量の算出について
その他資料番号なし 欠席委員の意見

■議事概要

- (1) 第1回委員会議事概要、第1回委員会指摘と対応について(資料1、資料2)
→議事概要、指摘と対応について一同異議なし。
- (2) 点検結果、効果及び課題について(資料3-1、3-2)
 - ・資料3-1、対策の効果については、対策区分ごとの目的に対して第1期計画がどれだけ達成されたかを評価するものであるが、事業の実施状況あるいはアウトプットの説明だけで、その目的の効果との結びつきに対する検証(エビデンス)、アウトカムがない。もともと計画の目的がアウトプットだからではないかと想像するが、きちんと記述できるものと出来ないものを整理すべきである。(委員)
 - アウトカムでの整理では、もともとの計画の問題でもあり、水質など具体的なエビデンスを整理できるものについては努力したいが、他の分野については困難。(事務局)

- 推定できるものは、しっかり記述し、不確実性がある部分についても触れることが必要
(委員)
- ・資料 3-2 では、何の分野が負荷量の削減に大きく寄与しているのか内訳を示すべきである。
(委員)
→参考資料でも整理しており、記載を検討したい。(事務局)
 - ・流達率=1 と仮定し、「流入負荷量」という言葉を使用しているが、評価しているのは「排出負荷量」である。実際には土壌を介するなど異なる場合がある。(委員)
→点検については、もともとの計画の計算方法で行い、今後については、課題として捉える。(事務局)
→「流入負荷量」という表現をするとき、必ず仮定(流達率=1)を記載する必要がある。
(委員)
 - ・調査・研究などでモニタリングされたデータが、保全対策分野(水質保全、水源かん養、自然的環境・景観保全)における、どの施策に繋がっているのかが不明であり、明確にすべきである。(委員)
→できるだけ保全対策分野に入れ込みたい。(事務局)
→関係づけることによって、課題も出てくるかもしれないので、うまく繋げてほしい。(委員)
 - ・県以外の、国土交通省や水資源機構によるモニタリング実施状況が不明である。(委員)
→対応したい(事務局)
 - ・各事業が、なぜ琵琶湖の総合保全にプラスとなるのかの説明の欄がないと、後からの検証ができない。(委員)
→エビデンスの話と同様、できるだけ記載できるよう努力する。(事務局)
 - ・第1回委員会議事概要にもアウトカムやモニタリングが重要であるとの指摘がある。(委員)
→もともとの計画は、アウトカムが明記されていなかった。ご意見は、今後の計画にて役立てる。(事務局)
 - ・滋賀県の「ML21 中間評価」でも指標がなく事業量でしか評価できず、今後の課題とした経緯もあり、アウトカムに繋がる指標の欄を追加すると将来役立つのではないか。(委員)
→欠席委員からも、水源かん養において、面積を詳細に把握すれば一定の指標になるため、そういった中間的な指標が大事であるご指摘いただいている。(事務局)
→水質については、参考資料2の負荷量算出の根拠になる数字と資料3-1の表との関連が指標になり得るのではないか。(委員)
→最終的な目標レベルまで、施策の進捗状況、アウトカム等、フェーズが違っても、評価できる指標を書いておくことは今後有効だと思う。(委員)
 - ・調査・研究の評価を行うには、施策単位で整理する必要がある。(委員)
 - ・資料3-1のP.4に、湖底浚渫による底質改善の効果(赤野井湾)として溶出負荷削減量が示されているが、現地測定結果か否か?(委員)
→担当部課にて確認して回答する。(滋賀県)
 - ・資料3-1のP.11、「リサイクル型水利用」について、水利用量の減少=リサイクル型ではない。(委員)
→持ち帰り再整理したい。(事務局)

- ・資料 3-1 の P.5 で、PRTR について上位 5 位だけとしているが、水環境への影響はそれ以外のものも重要。事業所排水についても情報整理してはどうか。(委員)
 - 上位 5 位物質は、白書等でまとめる形だが、それ以外の物質も把握しているので、整理は可能。(滋賀県)
 - 事業所排水のうち、下水道に入るものについても含まれているのか。(委員)
 - 確認する。(滋賀県)
 - ・資料 3-1 で赤字になっている H10 年度以降の施策は、新たな課題に対応して出てきたのか、その理由が不明である。(委員)
 - 調査・研究のように短期間のサイクルで実施しているものは、継続的テーマとして扱っているもの、新たな課題への対応として実施しているものもあり、分類を試みたい。(事務局)
 - ・研究で滋賀県がやっていて、国が補助するものなど不明なところがある。(委員)
 - 実施/補助主体で整理をしている。(事務局)
 - ・住民参加・実践、啓蒙・啓発、情報・交流について、対策保全 3 分野の中にもあるが、将来的な方向性として、アウトカム・評価は、どういう形になるのだろうか。(委員)
 - 必ずしも完全なアウトカムではなく、中間的な目標も含めて考えていきたいが、具体的にはまだ検討を始めていない。(事務局)
 - 参画・実践は、動員されるだけで終わる(参加の意味がわからない)ことが多く、情報をフィードバックすることが不可欠であることを念頭に、検討してもらいたい。(委員)
 - 委員からは、データベースの提案をいただいております、検討していきたい。(事務局)
 - ・現象面での把握・整理が重要。ネットワークが整備されても、生物量が減少しては意味がない。モニタリングを通して把握していくべき。(委員)
 - モニタリングと事業のセットの必要性を認識している。(事務局)
- (3) オブザーバーからの指摘
- ・資料 3-1 の P.15 について施策「カワウ漁業被害～」が「在来種の保全と外来種の除去の拡充」のところに位置しているが、カワウは外来種ではないので区分位置について再考が必要である。(滋賀県)
- (4) その他意見
- ・生物多様性についてのモニタリングについて、各機関で行われているものをデータベース化し、共有できればと思う。基本は先ず現状の把握が重要である。(委員)
- (5) 参考資料について
- ・参考資料 1「ヒアリング結果とりまとめ」について説明。(事務局)
- (6) その他事務連絡
- ・本日資料につき年内中に事務局に意見を乞う。(事務局)
 - ・次回委員会は、来年 2 月 25 日(木) 13:30 から大津市ふれあいプラザ大会議室で開催する。(事務局)

以上

別紙

オブザーバー出席者

農林水産省	農村振興局 整備部 設計課
林野庁	森林整備部 計画課
林野庁	近畿中国森林管理局
水産庁	漁港漁場整備部 計画課
環境省	水・大気環境局 水環境課
環境省	近畿地方環境事務所 環境対策課
国土交通省	都市・地域整備局下水道部 流域管理官付
国土交通省	近畿地方整備局 建政部 計画管理課
国土交通省	琵琶湖河川事務所 河川環境課
滋賀県	琵琶湖環境部 琵琶湖再生課